

(1) 2022年度 精神障害者地域生活支援部会 活動報告

精神障害者地域生活支援部会 部会長 河野和永

(陽だまりの会/幹事会)

<全体会の開催>

◆5月27日

- ・訪問面接の今後について
- ・精神障害当事者の抱える課題に対する検討を行うワーキングチームの結成について

◆7月22日

- ・訪問面接の今後の取り組みに関して
ワーキングチームの今後に関して

◆9月30日

- ・参加している各機関からの意見、提案を踏まえて今後の課題検討
- ・高齢化の課題
- ・地域包括との協議の場の設定

◆11月25日

- ・精神部会のこれまでの歩みの確認と今後の活動についての検討

◆1月20日

- ・地域で支援する上で困っている事等について
助言者 関西医大・枚方病院 吉野先生
医療・障害・包括センター（高齢）の連携について

(2) 2020年度の精神部会の活動をふり返って

2022年度は、精神部会で2012年度から取り組んできた市内精神科医療機関への訪問調査をベースに活動を行ってきたが、様々な要素により動かなくなってきた。

- ・コロナ状況により、医療機関への訪問等が困難となり、病院を中心とする医療の流れと、地域の動きが接点を持つ事が減少している。
- ・訪問面接をスタートした時期に逆のぼり、医療機関への地域から出向く関わり合いの動きがストップした事。
- ・部会に集まる各機関の世代の交替等もあり、大阪府の退院促進事業がスタートした状況の認識の共有化を新たに行う必要がある。
地域移行と地域で暮らすことへの体制をどう作っていくのか・・・等
枚方市内の医療・福祉等の関係機関で再度、確認と構築の作業の必要性について話題となった。

- ・医療との関係。地域における様々な支援機関等の関係の進め方。
- ・包括的支援体制の構築等、地域の課題等、継続課題として残されている。

障害者権利条約の対日審査の結果等も踏まえ、日本の精神科医療状況等に対する流れを見ながら、部会の今後の進め方等を検討していく必要がある。